

平成28年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	徳島県教育委員会
-------	----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型, II型, III型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input checked="" type="checkbox"/>	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input type="checkbox"/>	III型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
徳島県	特別支援学校	知的障がい	徳島県立国府支援学校 （とくしまけんりつこくふしえんがっこう）
徳島県	特別支援学校	知的障がい	徳島県立阿南支援学校 （とくしまけんりつあなんしえんがっこう）
徳島県	特別支援学校	知的障がい	徳島県立池田支援学校 （とくしまけんりついいけだしえんがっこう）
徳島県	特別支援学校	知的障がい	徳島県立池田支援学校美馬分校 （とくしまけんりついいけだしえんがっこうみまぶんこう）

2 研究課題

特別支援学校の高等部段階における障がいのある生徒へのキャリア教育・職業教育を推進し、企業や労働、福祉等の関係機関が連携し、官民一体となった就労支援を充実する実践的なモデル研究を特別支援学校において実施し、障がいのある生徒の自立と社会参加を推進する。

3 研究の概要

障がいのある生徒が自立し社会参加を図るためには、高等学校段階におけるキャリア教育・職業教育を推進し、福祉や労働等の関係機関と連携しながら就労支援を充実することが必要である。このため、連携の要となる就職支援コーディネーターを徳島県中央部、南部、西部の就労希望の多い知的障がい特別支援学校に配置し、企業と特別支援学校生徒の就労理解を深めるための「特別支援学校You Me（ゆめ）チャレンジフェア」、 「特別支援学校見学会」、 「企業見学会」を開催する中で、関係機関との連携を推進する。

また、技能検定4分野（ビルメンテナンス、接客、ICT、介護）を実施するとともに、新分野「流通」の新種目「商品化」及び接客分野の新種目「応用編」の開発に着手する。技能検定を取組の中核に据え、池田支援学校美馬分校でのカフェ開設、ビルメンテナンス協会との協力による就業体験実習の推進など、職業スキルの獲得に結びつく指導の充実と企業との協働プロジ

エクトによって、特別支援学校高等部の就労に向けた取組の充実を図る。

#### 4 研究の成果

##### (1) 就職支援コーディネーターについて

徳島県中央部、西部、南部の特別支援学校3校に就職支援コーディネーターを配置し、職場開拓や各事業所の情報収集を行った。就職支援コーディネーターの訪問事業所総数は、949事業所で、就業体験協力の了解を得た事業所数は262事業所となった。その内、就業体験を実施した事業所は32事業所であった。就職支援コーディネーターを活用したことで、就業体験の協力事業所が増加した。

##### (2) とくしま特別支援学校技能検定

各特別支援学校では技能検定の学習内容の教育課程への位置づけが進んでおり、受検者のニーズに対応したり、運営の効率化を図ったりすることで、受検者数が増加（平成28年度452名）した。また、専門家と連携し作成や改訂を行った検定評価表や指導マニュアル等を全県的に統一した指導ツールの活用、専門家を講師とした指導者研修会等により、指導に当たる教員の指導力を高めることができた。このように、技能検定を活用した結果、学習場面における指導目標や指導方法が明確になり、生徒の技能の習得、自信や就労に向けた意識の向上を図ることができ、大きな成果をあげることができた。

また、新分野「流通」の新種目「商品化」及び接客分野の新種目「応用編」を開発し、プレ検定を実施することができた。平成29年度から本格的に実施できる準備を整えることができた。

##### (3) 特別支援学校ゆめチャレンジフェアについて

特別支援学校ゆめチャレンジフェアを徳島労働局・ハローワークや商工労働観光部労働雇用課と連携し、徳島県東部と西部で開催した。企業と特別支援学校の相互理解やマッチングの場とすることができ、東部開催では参加企業23社、参加者は222名、西部開催では、参加企業21社、参加者は200名の規模となった。高等部生徒の働く意欲を高めたり、事業所の障がい者理解を深めたりする点において、大きな成果を上げることができた。

特に事業所への協力依頼においては、就職支援コーディネーターと徳島労働局・ハローワークや県商工労働観光部労働雇用戦略課と強力な連携関係を結ぶことができ、大きな成果につながった。また、地元の新聞報道などにも取り上げられ、取組の広報につながった。

上記(1)～(3)の取組、連携等が相乗効果を生み、平成29年度特別支援学校卒業生における就職率は、平成28年度に引き続き、35%を超える予定である。

(H29. 3. 25現在：高等部3年生178名中66名が就職予定)

#### 5 課題と今後の方策

### (1) 就職支援コーディネーターについて

個々の生徒の実態に応じた職域や職場開拓は今後も不可欠であるとともに、障がい者雇用に不安がある事業所への支援や障がい特性を理解するための情報提供、雇用後の相談など継続的な協力が必要である。このため、今後も特別支援学校には就職支援コーディネーター等の人材配置が重要だと考える。

また、十分なアフターフォローができず、就職後1年以内に離職してしまうケースも多い現状から、今後は、職場定着を目指したアフターフォローや障がい者雇用をしている事業所同士の連携を推進できるキーパーソンが必要だと考える。

### (2) とくしま特別支援学校技能検定

参加校や受検者の増加に対応した検定回数の増加や開催場所の検討、運営効率化等を更に進める必要がある。また、検定評価表や指導マニュアル等を活用した指導者研修会での実技演習や審査演習の実施、審査員の補佐としての副査の担当等により、指導のポイントや評価基準を学び、指導教員の専門性の向上を図るとともに、審査員認定教員制度を設け、特別支援学校主導の技能検定の継続的实施を進めていくことが必要である。また、技能検定で培った技術を活かした就業体験や、就職先の拡大が必要である。

### (3) 特別支援学校ゆめチャレンジフェアについて

本取組について、参加事業所から非常に高い評価を得られた。今後も、取組を継続開催するために、予算確保や関係機関との連携強化が求められる。

また、生徒による運営の導入や生徒と事業所担当者とが直接的に関わることのできる場を増やすなど、生徒理解を深められる内容の充実に向けた検討が必要である。

※徳島県では「障害」を「障がい」と表記